床は海、枕は山とたちのぼるむねの煙、はるゝまもなきなみだの雨そゝぎ、いつをかぎりの露の身の、きえやらぬほどもうらめしきぞかし。そのあらましを聊しらせまゐらせ候。そこほどは世わたるわざのことしげきにとりまぎれ、もはやこゝほどの事はおぼし出さるゝ事もなみのおと、すさまじき御心とやなりぬらんと思ひのたね、むねの中にしげりあひぬるまゝ、すずりにむかひ、とりわづらふ筆のすみも、なみだの海とやなる。（中略）

天正十八年の秋より、某の春、こまの國へ御陣有べきむね、仰有しかども、更に實ともおぼえ侍らで、おほくの月日を過し侍りしが、いつの間にやらん、文祿の年の三月にも移り來て、あすはこまの國へ舟出し給ふなると、何方もことゞ〳〵しうのゝしりあへぬ。大かた夜も半ちかう更しかば、行末の事など、かはらじとのみかたりつゝ頼みおきつるに、はや明け方の空に成て、別れを急ぐ鳥の聲々、打しきりしかば、

身はかくてさすらへぬとも君があたりさらぬかゞみのかげははなたじ

とよみおく和歌のごとく、これをかたみにと、たゝうがみながら殘しおき給ひしを、まことに袖より外にもらすかたもなく、恨みてはよみ、よみてはかこち、あさなゆふな詠めくらし侍りぬ。

思ひつゝぬればや人の見えつらん夢としりせばさめざらましを

小町のよみしことのはも、げにさることぞかし。

かぎりとてわかるゝみちのかなしきに生まほしきはいのちなりけり

まことにはかなきいのちながらへ、かゝる思ひもあさましくおぼえ侍れども、今一度見もし見えもし、つもりぬることもはらしまゐらせたく候て、あだなる露の玉のをも、ながかれとのみ祈る計にてこそ候へ。何事も〳〵あはれとおぼしめし出され候はば、かずかず御うれしく思ひまゐらせ候。申たき事どもこよなうおはしまし候へども、あわたゞしき出船のいそぎにとゝりまぎれ、いかゞ申候や、みゆるし候はゞ、めでたくかしく。

くり返し、そののちせうそこのおとづれもおはしまさず、御床しさのほどたへがたく、あまりに人めもはづかしくこそ候へ。まことに出やらぬねやのうち、ふかき思ひのふちとなりまゐらせ候。

かくあらんゆくへをしらでたのみつる我心をばたれにかこたん

是はみづからおもひよりにておはしまし候。御はづかしくこそ候へ。めでたく〳〵。

菊

五月五日

せ川うねめ殿にて

人々中給へ

この手紙は、歴史的な挿話があつて有名になつた手紙だ。これは、豊臣秀吉の朝鮮征伐のときに、博多から朝鮮へ行く船が途中で難船し、その船に積んであつた荷物が人に拾はれて、その中から出た手紙である。そしてこれが秀吉の手に入つた。秀吉は、この出征してゐる武士の妻の、良人を思ふ感情の哀れに深いのに感動して、瀬川采女を朝鮮から呼び戻した、といふ逸話の附いた手紙である。

少し難しい文章なので、ちよつと次に解釋してみる。

今度便船があるのを幸ひに、手紙を差上げるが、もう毎日々々貴方のことをなつかしく思つてゐるが、その貴方に對する氣持を、話して聽いて貰ふ人もないので、夜獨り寢るときも、常に涙に濡れてばかりてゐて、もういつ命が絶えるか、はやく命が絶えた方が却ていゝのではないか、

と思ふくらゐであります。さうしたわたくしのこの頃の有様を少しお手紙で報らせます。

貴方は、戰爭のことでお忙しいので、もはやわたくしなどに對しては、いくらか薄情になつてゐられはしないのかと思ふと、いよ〳〵心配が多くなりまして、手紙を書く墨も、涙の海になるやうな氣がいたします。（中略）

天正十八年の秋から朝鮮征伐の話がありましたが、本當のことだとは思はないうちに、長い年月を過ぎましたが、文祿三年の三月に、いよ〳〵明日は朝鮮へ船出するのだと、どちら様も大騒動でありました。

夜更けまで、行末のことはかはらないやうにとお互ひに言ひ交してゐるうちに、はや明け方の空になつて、別れを急がせる鳥の啼聲を聽きましたから、貴方は、「自分はどこへ行くか分らないが、鏡に影が映るやうに、貴方の側に心だけはついてゐよう」といふ歌を詠んでおかれました。それをいつも袖の中に入れて、悲しいときに讀み、讀んでは悲しがつて、眺め暮してをりました。

小野小町の歌の、「人のことを思つて寢るから人の姿が見えるのだらう、夢と分つたならば、い

つまでもそれを見つゞけてゐたかつたのに、つい眼が醒めてしまつたのがくやしい」といふ歌の意味が、沁み〴〵と思ひ出されます。もうこれが最後だ、お互ひに命のあるうちに逢へるかどうか、と考へながら、別れるのは悲しかつたですが、それにつけても、できるだけ生きてゐなければいけない、といふ歌の通り、まことにはかない命をながらへて、こんなに淺ましく惱んでゐるのも、もう一度お目にかゝり、積つた話をいたしたいばかりです。そのために、はかないこの命をながかれと祈るばかりでございます。どうぞ、わたくしのことを可哀さうだとお考へくださつたら、有り難いことだと思ひます。

言ひたいことはいろ〳〵ありますが、もう船の出發が間近に迫りましたから、なか〳〵どういふ風に申上げたらいゝのか分らないので、これでよしますが、どうかお許しになつてください。

もう一度申上げますが、その後消息のお手紙がないので、おなつかしさが堪へがたく、あまり悲しくていつも泣いてゐますので、人に見られるのが恥しいくらゐです。そしていつも寢室に垂籠めてゐます。もう自分の悲しみが淵ともなりさうです。

その次にある歌の意味は、行末がどうなるのか分らないのにも拘らず、行末のことを頼んでゐ

る自分の心を、誰に聞いて貰つたらいゝだらう、といふので、それから、これは、わたくしの作つたものでございます。あまり上手でないので、おはづかしうございます。

これは人妻の愛戀切々たる手紙で、妻から異國にある出征將士に送つたものである。女の感情をありのまゝに出してあつて、人を感動させるに充分な手紙だが、これはしかし、昔の無自覺な女性の書いた手紙で、現代の女性は、こんな統制のない、感情の抑制のない手紙を、絶對に書いてはいけない。妻からこんなたよりを貰つた將士は、みんな後髪を引かれるやうな氣持になつて、戰場で戰ふことができなくなるであらう。出征せる良人に對する愛慕の思ひは、昔も今も渝らないだらうと思ふが、その愛慕の情をぢつと胸に耐へて良人を勵ます女性こそ、立派な日本婦人であらうと思ふ。殊に戰場にゐる良人は、各自の妻が、どんな感情でゐるか、どんな氣持でゐるかは、みんな分り切つてゐるのだ。この瀨川采女の妻のやうに、その感じをこんなにまでまざまざと書かれては、良人はいよ〳〵堪らなくなるだらう。

お互ひに千萬無量の思ひを籠めながら、しかもそれをぢつと抑へてゐるところに、自覺せる日本婦人の人格的力强さが出てくるのだと思ふ。この手紙は、實感の籠つた本當の手紙であると思

ふが、しかし、もう愚痴である。武士の妻として、どうかと思ふ。恐らく、この女性は、武士の娘でないかも知れない。されど、女の感情をそのままに表したといふ點では、秀吉を動かしただけあつて、やはり人の心を打つものがあると云つていゝ。

けれども、皆様が、もし戰場にある皆様の良人なり、愛人になり手紙をお出しになるときは、この手紙のやうな感情は慎むべきであつて、心にさへ深い愛情を持つてゐれば、文句はどんなでも、その愛情がにじみ出してくるのだ。この無限の愛情をぐいつと抑へて、良人を勵まし、愛人を勵ますところにこそ、日本婦人の強さと、美しさが現れるのだらう。さうした女性の美しさ、強さこそ、出征せる人々に對して無言の後援となるだらうと思ふ。

東郷大將の母は、少年時代の東郷大將の出陣のときに、〃負けるな〃と、たつた一言云つた。東郷大將の母も、十六七にしかならない我が子のことを、どんなに心配したか分らない。が、母としての大きな心配を打ちかくして、負けるなと、たつた一言云つたところに、この母の偉さがあり、この母の偉さから東郷大將の偉さが生れたんだらうと思ふ。日本海の海戰に〃敵艦見ゆ〃との警報を得たときに、東郷大將が、やつぱりこの少年時代の母の一言を思ひ出したのではないかと察せられる。

再婚せる女性からの私信

菊池先生

前文御免下さいませ。

新聞に雜誌に或は小説にと、先生のお名は存じ上げて居ります。先生の小説は殆ど讀破して居ります一女性に過ぎませんが、此の度ほんたうに困つた問題が起りまして、御多忙な御日常をお過しの先生におすがりする次第で御座います。何卒不びんと思召し遊ばして一筆お返事賜り度く伏してお願ひ致します。

私事昨年三十二歳にて四十八歳の現在の夫の元に再婚致しました。嫁ぎ先の夫には本年廿五歳の男子が一人御座います。その男の子が只今上海にて皇軍の爲に健闘を續けて居りま

す。

父親と男の子の二人にて外に係累は御座いません。主人は私に向つて子供に手紙を出す様申されます。現在のありのまゝを書いて出す様にと申されますが、一度も逢うた事のない子供に、下手に書けば輕んぜられるし、最初の手紙は六ケ敷いと申され、非常に困つて居りますが、子供に對して決して悪い感情は持つて居りませんが、逢うた事のない戰地の廿五歳の男子に書く手紙、ほんたうに困つて居ります。一人の女をお助け下さると思召して、簡單でよろしう存じますが、どうして書いてよろしいかを一つお手本をしめして頂き度う存じます。常日頃御多用の先生と御伺ひはして居りますが、何分にも手紙、殊に六ケ敷い生さぬ仲の子供に出すのは非常におつくふに存じられ、日夜苦しんで居ります。どうぞ失禮の段悪しからず思召下さいませ。

菊池先生　　とし子

（原文のまゝ）

この手紙は、北海道の或る女性から來た手紙である。なか〳〵達筆によく書けてゐて、三十二歳の女性としては、十人並以上にできてゐる。だが、この手紙に書いてあることは、女性が手紙を書くときの心持の上での缺點を、かなりまざ〳〵と示してゐる。

この人は、普通のやさしい女性で、性格的には、何も缺點があるとは思へないが、ただ、まだ會つたことのない二十五歳の生さぬ仲の子供に、手紙を出すのに對して、あるきまりの悪さ、恥しさ、自分が馬鹿にされやしないかといふ女らしい取越し苦勞に惱んでゐるのだ。

また手蹟もかなり見事で、女の手蹟としては、どこへ出しても恥しくないくらゐである。私はこの人に次のやうな返事を書いた。

貴方のやうな、字も文章も上手な方が、なぜそんな事に惱んでゐるのか、私には分りません。貴方が縁あつて親子になられた義理のある息子さん、殊に今國のために戰地で働いてゐる方に手紙を書くといふことは、貴方が素直な氣持になれば、いくらでも書くことがあるのではないでせうか。貴方が女性としてのよけいな心配や、取越し苦勞を忘れて、素直な氣持で手紙へ向へば、それこそ書くことが澤山あつて困りはしませんか。貴方は、まだ面識のない僕にこんな

手紙を下さいましたが、貴方の義理の息子さんに出す手紙よりも、面識のない僕に手紙を出す方が、十倍くらゐ難しいことぢやないでせうか。貴方は、その難しい僕に對する手紙を書きながら、どうして義理のあるお子さんに對する、僕に書くよりはずうつとやさしい手紙を書かないでせうか、僕にはむしろ不思議に思はれます。

私は、かういふ返事を出したのであるが、この女性は、自分が再婚だとか、年を取つてゐるとか、相手があまり大きい息子であるために、さうした感情の整理がつかないでまご〳〵してるのだと思ふ。でなかつたならば、戰地にある未見の義理のある息子などには、いろ〳〵書くことがあつて困るくらゐではないだらうか。それは恐らく書き榮えのある手紙の一つになりはしないかと思ふ。

それがちよつとした心掛けの迷ひから、こんな難しくなつてゐるのである。親子となつた緣の不思議さ、國のために戰つてゐてくれる未見の義理のある息子、といふやうな點に自分の心を深めていつたならば、どんなしんみりとした良い手紙でも書けるのではないだらうか。

女性の中には、ちよつとしたきまりの惡さや、ちよつとしたテレ臭さで、出すべき手紙も出さ

ないやうな人が隨分多いが、この手紙の筆者なども、その代表的な一人ではないかと思ふ、些細なきまりの惡さ、恥しさを克服しさへすれば、そこに感情の大きな流れが、お互ひの胸を通じて流れるのではあるまいか。

一少女の身上相談の手紙

突然お手紙等を差出す事をどうぞ御許し下さいませ。私は自分でどうしたらいゝのか分らなくなつてしまつたので、先生の御意見を伺ふ事に、私の將來の途に光をみいだすのではないかと思ひまして、お手紙を出すしだいで御座います。

私は、本年早生れの十六歲になつた少女です。私の家は商家にて硝子製造販賣です。昨年の三月二十五日父を亡し、市立高女に通學して居りましたが、夏以來退き、現在は丸ノ内の會社に勤めて居ります。が、今惱んで居ります苦しみは、外でも有りませんが結婚問題なのです。

私は兄二人弟一人の四人兄妹です。長男は廿六歳、次男は廿二歳ですが、上の兄さんは事情があつて福島の方に居り、家の商賣は全然して居りません。

次の兄さんは商賣はやつて居りましたが、終生やるといふ熱がなく、父の生前中は心配を掛けたりして居りました。初七日に親類の者が集まりました折、店のこれからの營業方針を相談しました時、次の兄さんは、この店は見込みがないから權利を賣つて一番の兄さんの所に行つて本屋でも始めようと申しました。母は、亡父と共に苦勞してこれ迄にしたのを無殘々々賣つて、新しい土地に行つて新しい商賣をやるより、其れだけこの商賣に力を入れた方が有望だと主張しました。私も賛成でした。親類の者は、次の兄さんの意見ばつかり賛成し、家の事は少しも考へて下さいません。

其の時三四年前三年ばかり店に居つた人で、二十六歳になるKと言ふ青年が居りました。其の人は中學四年程行き、家庭の事情にて退め、商賣好きで店に入り三年ばかり眞面目にやり、亡父の息子の様に世間から思はれる程でした。が、家の都合にて涙で別れ、或る會社に勤めて居り、度々來ては遊んで行つたりする程でした。所へ丁度彼が來ました。彼は決して商賣は棄て

たものではないと力説し、帳簿等を見せたりして、兄達に店をやらせる必要を説きましたが、逆效果をまねき、其の間いろ〳〵ごた〳〵しました。結局兄達がやらない爲Kがやる事になり四月の或る夜彼は私を愛して居る事を告白しました。彼全體は私もよく知つて居り、品行も眞面目な、そして頭もインテリで優しく、會社に居つても地味な人で、徵兵檢査が濟んで始めて喫茶店に行つた程な人で、結婚しても幸福にしてくれる事はよく信じて居ります。私は母に打明けました所、始めは考へて居りましたが承知しました。彼は會社と店を掛持ちでは能率が擧らぬと言ふので、彼の親姉妹の反對を振りきつて會社を退め、店の仕事をする様になりました。

始めの中は賣上も餘りなく、一錢も彼の家庭に入れられませんでした。彼は私を本當に愛して居ります。

四月以來十ケ月になつても變な事をみせませんでしたが、接吻だけは許しました。最近彼は、どうしても私の總てを要求しなければならない心理狀態になつて來た事を、母に話しました。母は彼の眞面目さに驚き、彼に同情し、私にお前もよく考へて嫌でなければ少し早すぎ

るけれど一緒になりなさいとすゝめます。彼もこのつぐなひには、きつと私を幸福にするからと申します。私も彼が嫌ならばこんな心配はしません。私も彼は好きです。私は始め約束した時は二十歳で結婚する筈でしたので、思ひもよらぬ事なのに驚きました。私の考は、十八歳位迄待つて戴ければ、家事も裁縫も習へますが、今結婚する事は不安で堪らず、又何にも知らずに家庭を持つ事も不安でなりません。本當の物心附いた娘時代も二三年で、結婚生活に入るその悲しみと恐怖で、十八位迄は結婚する氣がしないのです。彼は、氣持が、自分の慾が最後迄來てしまつては、失戀するかそれ共幸になるかのどつちかになつてしまつたと申します。

私も彼の氣持はよく分るのですがどうしても氣が進まないのです。肉體的では駄目でも精神的にはどれだけでもつくし慰めて行き度いと思つて居りますが、こゝで失望させるのは僕が可哀相だ、親や兄弟及友人も捨てゝ來たのも君あつてこそだつたのだと言はれますと、私としても何とも言へません。私は嫌でそんな事するより、お互にさつぱりした氣持で結婚した方が、二人の幸福ではないかと思ひます。母は我儘だと申します。私達母娘が一緒に住めるの

は皆彼のお蔭だと言はれ、彼の事を考へると、又自分の事も考へ、母の事も考へると、目分の思つて居る考は惡いだらうかと迷つてしまひます。店の營業權は彼にあるのですから、私が嫌ひと申しますと、彼は失戀した事になり、一緒に居る事は出來なくなり、生活樣式が、變る事になります。彼の親達が入つて來る事になります。私は彼に十八迄と賴みました。別れた當時は苦しく共君の幸福の爲ならそれでも好い、緣があれば又一緒になれるだらうと淋しい事を彼から言はれると、私は何としたらよいかわからないのです。私の十八歳迄待つて吳れと言ふのはわがまゝでせうか？

それ共母達のすゝめ通りするのが私の行く道でせうか？

どうぞ私の行く道をお教へ下さいませ。

亂文亂筆を御許し下さいませ。長くなりました。（以下略）

（原文のまゝ）

私は、この手紙を見て實に感心した。文字も十六歳としては實にしつかりしてをり、この複雜した事情を、こんなに細かく書いてある文章のうまさ、物の考へ方の確かさに全く敬服した。例

へば、この文章の中で、「所へ丁度彼が來ました。彼は決して商賣は棄てたものではないと力説し帳簿等を見せたりして、兄達に店をやらせる必要を説きましたが、逆效果をまねき、其の間いろ〳〵ごた〳〵しました」などのところは、複雜な事情を實に簡潔に説明してある。この若い十六の女性が、相手のKを愛しながら、しかも、十八歳まで待つて貰はうとする氣持は、實に見上げた氣持である。また、自分の氣持や、相手の氣持をこも〴〵説いてゐるところなども、とても十六の少女とは思へないくらゐ巧みなもの。

私は、とんなに云つてることのよく通る手紙は稀しいとさへ思ふ。これは、十六になる頭のいい子が、まだ純な、僞りのない、體裁や、人々を氣にしない素直な氣持で書いたために、こんな意味のよく解る手紙が書けたのではないかと思ふ。

新女大學

昭和十三年八月十七日印刷
昭和十三年八月十七日發行

定價壹圓五十錢

著者　菊池寛

發行者　馬湘圭

發行所　東京市麹町區内幸町大阪ビル
モダン日本社
振替東京七五一六二
電話銀座二九二四

印刷者　東京市牛込區榎町七番地
大日本印刷株式會社
製本者　堀修造
沖本製本所

大賣捌　東京堂　東海堂　北隆館
大東館　上田屋　栗田書店

菊池寛 二大名著

文章讀本

定價一圓五十錢
送料十二錢

日本文章道の革新の大念に燃えた大菊池氏不朽の名著の偉力物凄く、忽ち二百版突破、十萬部普及計畫見事大成功す！ 内容は平明簡潔、組織的で興趣深い鑑賞篇から指導篇、手紙の書き方まで全部網羅され、古今東西の名文を引用せるその博學と懇切さは空前絶後の文章讀本である。

日本文學案内

定價一圓六十錢
送料十二錢

更に「日本文學案内」は、「文章讀本」の姉妹篇にして、百尺竿頭更に一歩を進めて、文學乃至人生の根幹を、大菊池の深奥な文學觀から展望した感激措く能はざる完璧絶讃の大内容！ 何人もすぐ讀まれよ。

東京市麹町區内幸町大阪ビル
モダン日本社
振替東京七五一六二

菊池寛著

革命的大賣行
二百五十版突破

戀愛と結婚の書

定價壹圓五拾錢
送料十二錢

昭和のバイブル！
戀愛と結婚の革新！

本書出でゝ、日本の青年子女の戀愛悲劇は消失した。現代人の戀愛と結婚觀は、明朗となつた。まさに救世の名著だ。發賣以來忽ち二百五十版突破の壓倒的賣行は、雄辯に之を物語る。即刻一本を備へられよ。

二百五十版突破記念絹裝美本發賣
何人もどの家庭も必ず必備！

佛文壇大家名作選集　玉川一郎譯

傑作舶來コント集　辯解夫人（いひわけふじん）

定價一圓五十錢　送料十二錢

面白くてたまらない、しかも飜譯臭みの全然ない、あつと驚く破天荒のサゲ。五十餘篇いづれも、かの國第一流作家の不滅の名短篇を更に文壇オリムピックの競技會で一等でパスしたものばかりだ。

林安繁著

豆腐の滓（から）

定價一圓六十錢　送料十二錢

宇治川電力社長として關西實業界の巨星的存在たる林安繁氏は、また筆を執れば斯界の第一人者。その時局隨筆に、南國、北支、中支見聞記を收錄せる本書こそ必讀すべし。

內田誠著

綠地帶

定價二圓　送料十四錢

珠玉の隨筆に、俳句に文名頓に名高き水中亭、內田誠氏が、掬しても盡きざる滋味深々の近什隨筆を、茲に小村雪岱畫伯の彩管協力により空前の豪華本として見事完成す。

市河三祿著

三祿隨筆

定價二圓　送料十四錢

ユーモアと諷刺を含む東西無双の名隨筆家たる著者はまた前京都帝大農學部長、林學博士として學界に惜まれつゝも永眠さる。氏の眞面目は躍如として本書にあり。

澁澤秀雄著

三面鏡

定價二圓　送料十四錢

澁澤榮一子の名門に生れ最高の教養と重なる海外の遍歷により人間的重厚を加へた著者の紳士的ユーモア隨筆と南洋猛獸狩り、嚴父の映像の三部曲を收む。

戰爭論の最高權威

武藤貞一著

定價一圓五十錢
送料十二錢

大評判新刊

驀進

松島中佐の「戰火に立つ」を讀んで感激した人は、即刻本書を讀め！「戰火に立つ」は、支那事變全貌を示し、本書は、長期戰その後に來るものすべてを取り扱ひ、國家總力戰に備へた、武藤貞一畢生の快著、國民必讀の大著だ！

武藤貞一著

日本革新の書

定價一圓二十錢
送料十錢

初版三萬八千即日賣切れの大記錄を作つた本書は今日の日本革新の氣運を醸成し聖戰の意義を深めた不朽の名著。

NDO